

平成17年10月7日

掛布雅弥ギターリサイタルを聴いて

下記日程でギターリスト 掛布雅弥氏が来松されました。
幸いにも私は、2日目の公開レッスンにも参加する事が出来、おまけに生徒として「アルハンブラの思い出」を直接指導して頂くと言う幸運にも恵まれました。

■(Ⅰ)掛布 雅弥 ギターリサイタル

日程:リサイタル 10月1日(土)7:00 開演
場所:ハーモニーフジタ(愛媛:松山市)

■(Ⅱ)掛布 雅弥を囲んで(公開レッスン)

日程:10月2日(日)
場所:三津浜福祉センター
時間:am9:30~11:30
主な内容 ギター奏法について
お問合せ先・ベンテン堂・・・tel:089-952-1788

1日目 ギターリサイタル

10月1日午後7時、いよいよ掛布雅弥氏のリサイタルが、愛媛県松山市、ハーモニーフジタにて開演となる。会場となったハーモニーフジタは定員が約130人程の小さなホールなのだが客席の椅子が足らなくなり、空いているスペースに予備の椅子をセットする事となった。大相撲で言えば、満員御礼札止めの状態か。

掛布氏が松山でリサイタルを行うのは、今回が初めてである。プログラムの第1部は、アリアと変奏(フレスコバルディ)、ショーロス第1番(ビラ ロボス)、スペイン舞曲第5番(グラナドス)と演奏が進んだところで、掛布氏が聴衆に向けて口を開いた。話の内容は、本日ちょっとしたアクシデントがあった。それは数時間前、主催者であるベンテン堂の廣川氏の所で自分のギターを調弦し

ていたら糸巻きが壊れてしまった。何とか廣川氏が修理してくれて今日自分のギターを弾く事が出来たという事でした。

続いてアルベニスの曲を3曲（アストリアス、マジョルカ、セビーリャ）を続けて弾き、第1部が終了しました。

休憩を挟んで第2部へと進む。

第2部は、コウンババ（ドメニコニ）とグランド・ソナタ（パガニーニ）の大曲2曲。コウンババは、松山のギター製作家（主催者でもある）廣川憲二氏が製作したギターを使用した。

2部が終了しても、ほとんどの聴衆が席を立たないため、アンコールは、舟歌（タンスマン）、前奏曲第1番（ビラ ロボス）、禁じられた遊び（スペイン民謡）、アルハンブラの思い出（タレガ）と 合計 4曲も弾いてくれました。

全曲を通して、掛布氏の音はきれいで、つやがあり、そして大きい。それでいて雑音がまったく感じられない。私はホールの中程左側の席にいたが、目を閉じて聴いているとすぐ傍で音が鳴っているように感じた。廣川氏製作のギターで弾いたコウンババに於いてもその音は、満足できるものであり、掛布氏の音は、ギターを選ばずという所か。

聴衆の方々も非常に満足したのだと思います。それは、演奏会の直後に掛布氏のCD及び楽譜が、あっという間に売り切れ、掛布氏にサインをしてもらう為、長蛇の列が出来ているのを見てそう確信しました。この時も掛布氏の右手は演奏会の直後にもかかわらず、すごい速さで動いていました。

ギターリスト掛布雅弥氏の演奏は、2度、3度と聞いてみたい音であり音楽であり歌であると思います。掛布氏には近い将来ぜひ松山での2回目のリサイタルを行って頂きたいと熱望します。

2日目 公開レッスン

9時30分から三津浜福祉センターにて公開レッスンが始まった。参加者は、30人強と言った所か。

掛布雅弥氏の奏法の秘密が明かされる。

右手は横から出すのではなく上から弦に対して下ろしてくる。一番楽な所(自由に指が動く所)でセットする。手は表面版(弦)に対して平行移動させる。掛布氏の手(指)は意外にも表面版(弦)に近い。そしてimaの弾弦については、爪に一番近い間接を反らすように弾く。

前日のリサイタルで弾いたパガニーニのグランド・ソナタのスケールの部分は、すべてimaでのアポヤンドで弾いているとの事。

少し離れたところから見ても、音を聞いただけではアルアイレ、アポヤンドの区別はつかない。最初はアルアイレで弾いているのだと思った。何故なら掛布氏のアポヤンドは、私の知っているアポヤンド奏法とはまったく違う奏法のように思えたからだ。掛布氏のアポヤンドは強い音を出すと言うよりは、むしろきれいな音出すための奏法のように思います。(私が知らないだけで本来アポヤンド奏法とはその様な奏法なのかも知れませんが。)掛布氏の言葉を借りれば弦の方が勝手に向こうからやってくるとの事。私には詳しくは分かりませんが、ちょうどバスケットボールで早いドリブルをする感じかなと思いました。

なお、掛布氏によればアルアイレでもアタックの角度をかえただけでアポヤンドと同じ音が出せるとの事でした。

昔セゴビアのレコードを聞いて、なぜあんな音が出せるのか疑問に思ったものです。掛布氏の出す音はセゴビアのそれに似ているものがあり、よい音を出すという点から見れば現代の奏法よりは、遥かに高度な技術を要するものだと感じました。

自分で長年苦勞して身につけた技術を惜しみなく教えて頂いたマエストロ掛布氏の人柄に感謝するとともに、今後益々のご活躍をお祈りいたします。

以上
(赤瀬幸士郎)